

治療手段として漢方薬や鍼灸（しんきゅう）を用いる、中国に源を發する伝統的医学体系を本邦では一般に「東洋医学」と呼んでいます。日本の医学は、明治政府がドイツ医学の採用を決定するまで、東洋医学がその主流を占めていました。すでに五〜六世紀頃には東洋医学は中国大陸より他の諸文化とともに輸入され、行われていたことがわかっています。

明治以降、我が国の医学教育はドイツ医学への方向転換を余儀なくされたため、以後漢方や鍼灸の診療はごく一部の人々によって細々と受け継がれてきました。漢方薬が一般の治療手段として定着したのは昭和51年の医療用漢方エキス製剤（以下エキス剤）が保険診療で使われるようになった以降のことです。全国各地に漢方研究会、東洋医学研究会等が組織され、医師の為の漢方講習会が広く行われるようになってから一気に拡大しました。そして近年東洋医学がようやく受け入れられ、治療に応用されるようになりました。

では西洋医学とはどう違うのでしょうか？明治以降は、日本では西洋医学の勉強をして医師になります。西洋医学の基本は診断学です。つまり病気を治療するためには診断が必要になり、診断するためには様々な

検査が必要となります。たとえば尿の検査、血液の検査、レントゲンや超音波検査、CTやMRIなどいろいろな検査をすることで病名が分かります。その病名に対して治療が開始されます。治療は内服薬や手術など様々です。

これに対して東洋医学ではどのように診断するのでしょうか？江戸時代に血液検査やレントゲンはありません。そこで、東洋医学では、人体の基本的な構成要素を一般に「気・血・水」の三つに分類しています。各々のバランスが崩れると病気になると考えます。身体のバランスの乱れの状態を知る「診断」の方法として、昔から「四診」（ししん）というものを用いてきました。この四診とは患者さんの全体像を見る、話を聞く、脈を診る、腹診、舌を見るなどがあり、四診によって得られる情報から、患者さんの内部でどのような歪みが生じているのかを類推し、漢方薬を考えます。しかし、この四診による診断方法が非常に複雑であり、ある程度の訓練を必要とします。

そのため、最近では、西洋医学の病名に対して効果のある漢方薬のエビデンスを集め広く誰にでも薬を選べるようになっていきます。例えば外科の手術後には大建中湯（だいけんちゅうとうとつ）や胃の不定愁訴には六君子湯（りっくんしとう）などがあります。

ではよく西洋医学と東洋医学のどちらが効くのかと言われますが、その状態によって変わってきます。例えば、私は泌尿器科なので急性膀胱炎に対しては抗生剤のほうが効きますが、検査で異常のない慢性膀胱炎には漢方薬を使います。または両方の薬を投与する場合もあります。日本の医療制度では漢方の専門医試験はもともと各科の専門医を取得してさらに3年間の研修をしてからしか受験できないシステムになっています。従って、漢方の専門医は西洋医学・東洋医学の両方を習得しており、その状況によって効果のある方を選択しています。また、「効果が出るまで時間がかかるから漢方は嫌です」と言われることもあります。漢方には即効性の薬もあります。例えばごむら返りに使う芍薬甘草湯（しやくやくかんぞうとつ）や下痢の薬などです。しかし、慢性疾患に対する場合は少し時間を要するときもあります。最後に、漢方は副作用が少なくと思われていますが、薬なので副作用はあります。処方医や薬剤師の先生とよく相談し服用しましょう。

わたしたちの健康

日曜・休日に実施している医療機関

午前10時～午後4時

月日	場所	施設名	科目	☎(048)	場所	施設名	科目	☎(048)	
1	志木	小児科皮膚科村田医院	小・皮	472-3030	朝霞	さない耳鼻科クリニック	耳	450-3710	
③	新座	新座中央通り診療所	内・小	473-3331	朝霞	北朝霞整形外科	整外・内・リウ・リハ	474-7711	
8	新座	樹康クリニック	内・小・外・皮・消内・肛	470-5050	志木	清河眼科医院	眼	474-3369	
11	15	和光	和光小児科クリニック	小・内	467-1108	新座	須田整形外科	整外・リウ・リハ・内	478-2688
22	朝霞	弁財泌尿器科・内科クリニック	泌・内	487-8160	志木	志木江原耳鼻咽喉科	耳	473-7929	
23	新座	志木南口クリニック	内・外・小・消内・整外・肛・リハ	485-6788	新座	庄林医院	内・外・消内	477-3357	
29	和光	和光内科外科診療所	内・外・皮・小・リハ	466-2235	朝霞	所医院	内	463-1316	



※当番医は変更になる場合もあります。確認してからお出かけください。